

金子哲男氏は、1928(昭和3)年坂東市逆井に生まれました。戦時下の混乱の中で学生時代を過ごし、教員の道へと進みます。小中学校教諭として勤務する傍ら絵画に親しみ、40代にさしかかるころ、稲田年行氏に師事したことを契機に銅版画制作が終生のライフワークとなりました。茨城県芸術祭美術展覧会、新構造社展、国際交流美術展などで作品を発表し、昭和63年芸術公論賞、平成6年新構造展東京都知事賞などを受賞。生涯、地元坂東市に居を構え、縄文や民俗を題材に数多くの作品を遺しました。銅版画のほかに絵画、写真にも造詣が深く、市民向け絵画講座の講師や猿島町文化財保護委員、町史編さん委員を歴任するなど郷土の文化振興に寄与され、2018(平成30)年12月21日90歳で逝去されました。

本展覧会では、ご遺族の協力を得て、故人のお人柄を偲び、郷土愛から生まれた多彩な作品を展示させていただき、氏の創作活動の一端を紹介します。



かね こ かつ お
金子哲男 (1928-2018)

略歴

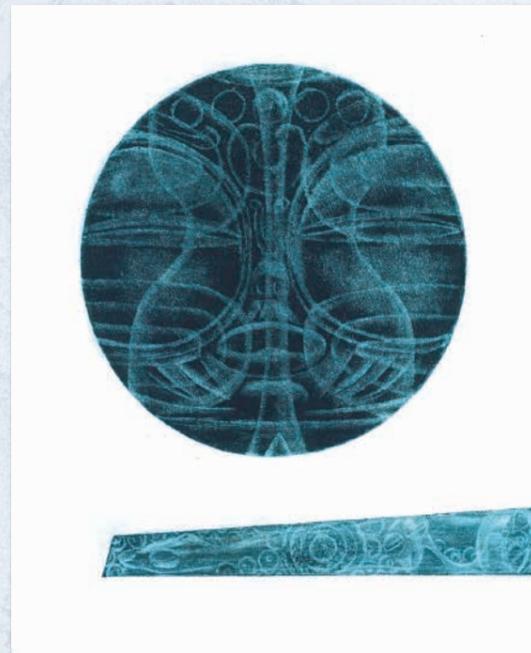
- 昭和3年 坂東市逆井に生まれる
- 昭和42~50年 茨城作家集団「創」展覧会出品
- 昭和42~52年 集団「版」展出品
- 昭和46~56年 「点and点」展覧会出品
- 昭和63年 芸術公論賞受賞
- 平成6年 新構造展東京都知事賞受賞
- 茨城県芸術祭美術展覧会、新構造社展ほか多数の展覧会、国際展に出品。



「JŌMON72-D」(部分)

本図案を16枚連結した980mm×980mmの作品は「JŌMON72-E」との2枚組で1972年第44回新構造展にて入賞。その後猿島町役場庁舎に展示された。

銅版画制作のメインテーマ
「JŌMON」(縄文)



「JYOHMON-0209」



「JŌMON75-D」

「縄文土偶の持つ表情は、現代人の苦悩と共通します。その苦悩を表現したつもりです。」

H26 郷土作家展作品解説より

思い出の風景



「筑波幻想」

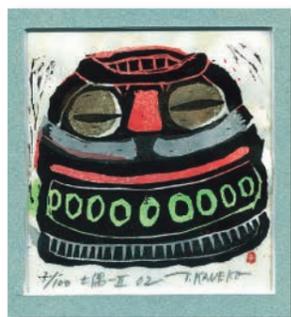


「御幸ヶ原-I」

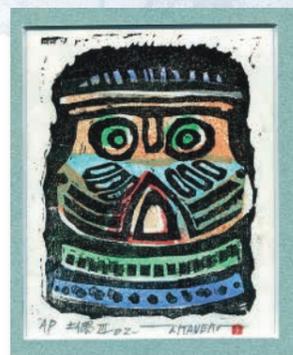
多彩な創作活動



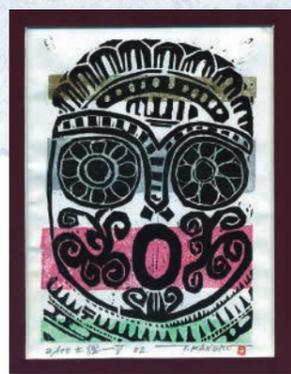
『土偶-I 02』



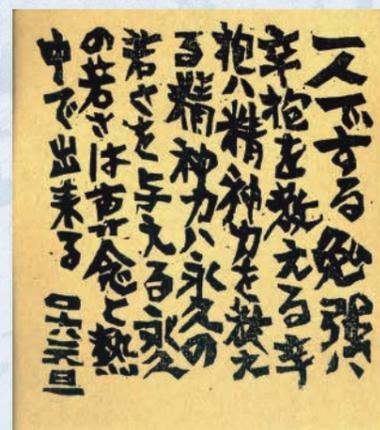
『土偶-II 02』



『土偶-III 02』



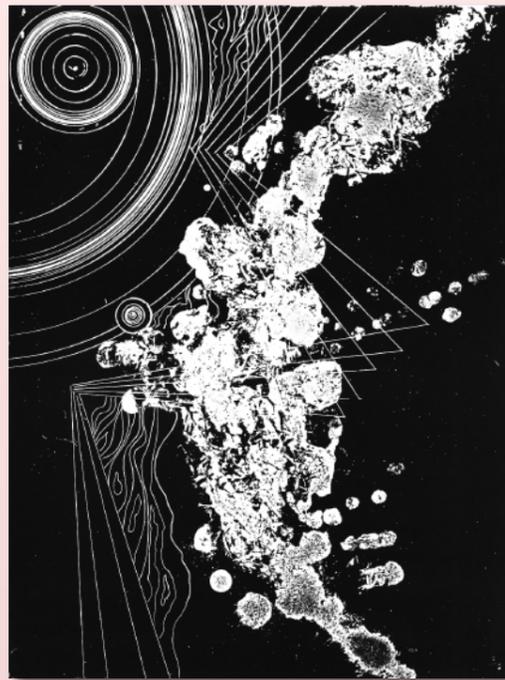
『土偶-V 02』



メッセージ等の文字作品



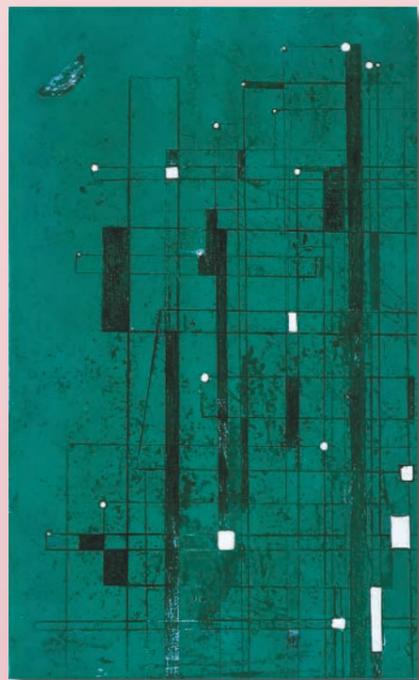
金子哲男写真集『美しき石仏様たち』より



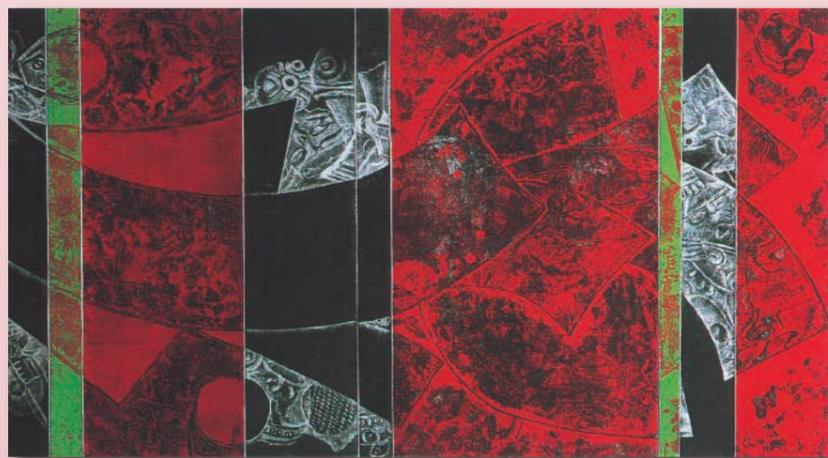
「水A 74」



「fantasia VI」
第66回(1994)新構造展東京都知事賞受賞作品



「黒い月 02」



「噴-II」昭和63年(1988)芸術公論賞 受賞作品



平成18年(2006)
ミュージズ開催
銅版画教室の様子



同時開催 「郷土館ミュージズ美術品展」

坂東郷土館ミュージズが所蔵する郷土ゆかりの作家の美術作品を展示します。

企画展

金子哲男 遺作展

銅版画に魅せられて

【開館時間】平日午前10時〜午後6時30分 土日祝午前10時〜午後5時
【休館日】月曜日、祝日の翌日 【入場料】無料

2020年

7/18 土

9/22 火祝

金子哲男「流-IV」

坂東郷土館ミュージズ



坂東市立資料館 〒306-0502 茨城県坂東市山2726
TEL 0280-88-8700・0297-44-0055
<http://www.city.bando.lg.jp/page/dir00060.html>